

〈特集〉フランス料理 突きつめる個性

ア タ ゴール
ル・プティ・トノー
ル グドゥノム ブション リヨネ
ル・ヴェール・ヴォレ・ア・東京



安川哲二の今月一品

merci
30th
ANNIVERSARY



友田晶子の
気になる

日本酒



インパクト狙いではない
深いストーリーを持つ
辛口「雪男」(鶴齢)



「辛口 雪男」1800ml 1850円

JR越後湯沢の駅は酒好きにはたまらない場所だ。「元東日本が運営するショッピングモール」CoCoLo湯沢」には、新潟の地酒を飲み比べできる「ぼんしゅ館」、新潟らしい食事ができる「がんぎどおりたべあるき横丁」、お土産街「中央市場」のほか、なんと酒風呂まである。

お酒売り場でひとときわ目立つのが「雪男」という地酒。雪深い町ゆえに雪山やスキーが好きな男性向けに造られたお土産専用の酒かと思つたら、なんのなんの、造り手は300年の歴史を誇る隣町塩沢の名蔵「鶴齢」(青木酒造)の商品であった。飲んで

みればなめらかなコクを楽しめる辛口酒。確かに雪男ならぬ男性好みの味わいだと思うが、このネーミングには実は深いストーリーがあるのだ。

江戸時代後期に活躍した随筆家、鈴木牧之は魚沼郡塩沢の生まれ。雪国特有の自然や風土、慣習、伝承、遊びなどを生き生きと伝える随筆

「北越雪譜」で知られる。『異獣』の章には「山越えをする旅人が道に迷うと、毛むくじやらの猿に似た異獣があらわれ、握り飯と交換に道案内をする」という話が出てくる。ご想像の通り、この地酒「雪男」は『異獣』がモデルなのだ。

青木酒造は牧之と親族関係にあり、このイラストも当時の牧之の挿絵をもとにしている。商品ラインナップは、日本酒度+7〜8の辛口「雪男」、+13の「純米酒 雪男」、ドライな発泡清酒「純米酒 雪男 活性にごり」、すっきりとした「本格焼酎 雪男」の4種。強い酒の代名詞「鬼ころし」に対抗できる味わいと商品名である。

また、スノボーを担いだ雪男ステッカーも洒落があつておもしろい。スキー・スノボー客が多いこの地域、若い人には珍しいラベルと手に取ってもらえれば良いとは蔵元の言葉だ

が、売り上げの一部は山岳救助隊に寄付されるほか地元フリースタイルスキー選手の応援にも使われている。深いでしょ？ 越後湯沢の駅でも買えるが、ちよつと足を延ばして地元塩沢の蔵に行くのもいい。風情ある蔵の街を散策できるし、鶴齢が運営するカフェ「OHGIYA CAFE」もある。深いのは、ストーリーとこの地の雪だけじゃない。地元を思う気持ちの深さもぐくつと感じられる酒なのである。

問い合わせ 青木酒造
025-1782-0023